

# SDGsによる持続可能なまちづくり

～ 世界のあしたが見えるまちを目指し ～

2019年6月23日(日)

つくば市政策イノベーション部 部長

森 祐介

- 市の人口 年間約2,500人増  
**236,000人 → 2036年 259,000人**  
(平成27年10月つくば市人口ビジョン)  
**10,000人** 在留外国人(140の国と地域)

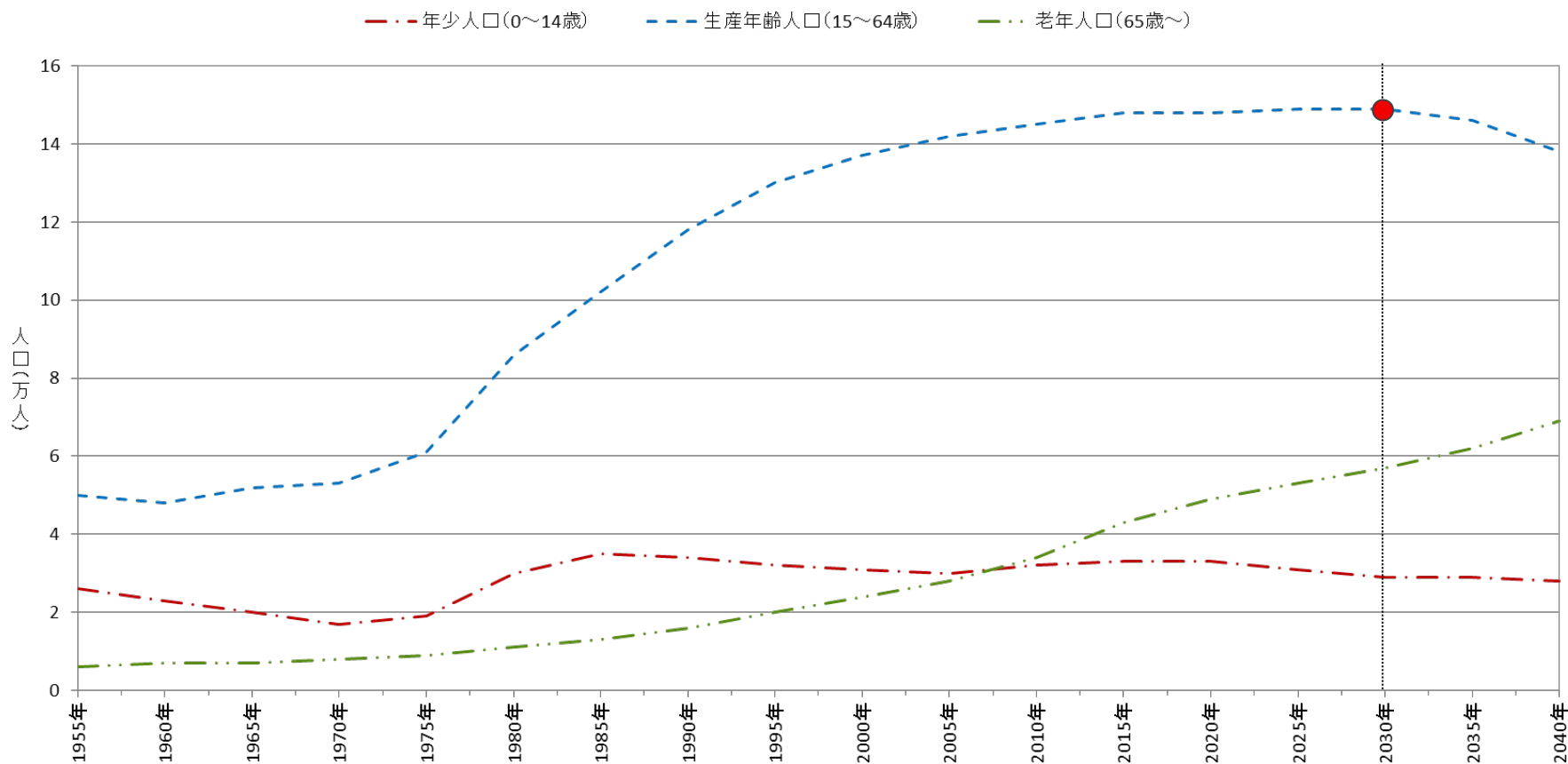
- IT・科学のまち **全国トップ** (2016/2017地域ブランドランキング)

**150** 研究機関の数  
**20,000人** 研究関係者の数  
**8,000人** 博士号の数  
**4人** ノーベル賞受賞者  
**250** スタートアップ企業



# 生産年齢人口は2030年がピークとの予測

(平成27年10月つくば市人口ビジョン)



## 周辺地域の少子高齢化

### 【大穂地区】

出生率: **1.56**  
高齢化率: **24.3%**

### 【豊里地区】

出生率 : **1.27**  
高齢化率: **23.9%**

### 【谷田部地区】

出生率 : **1.17**  
高齢化率: **26.3%**

### 【茎崎地区】

出生率 : **0.99**  
高齢化率: **37.6%**

### 【筑波地区】

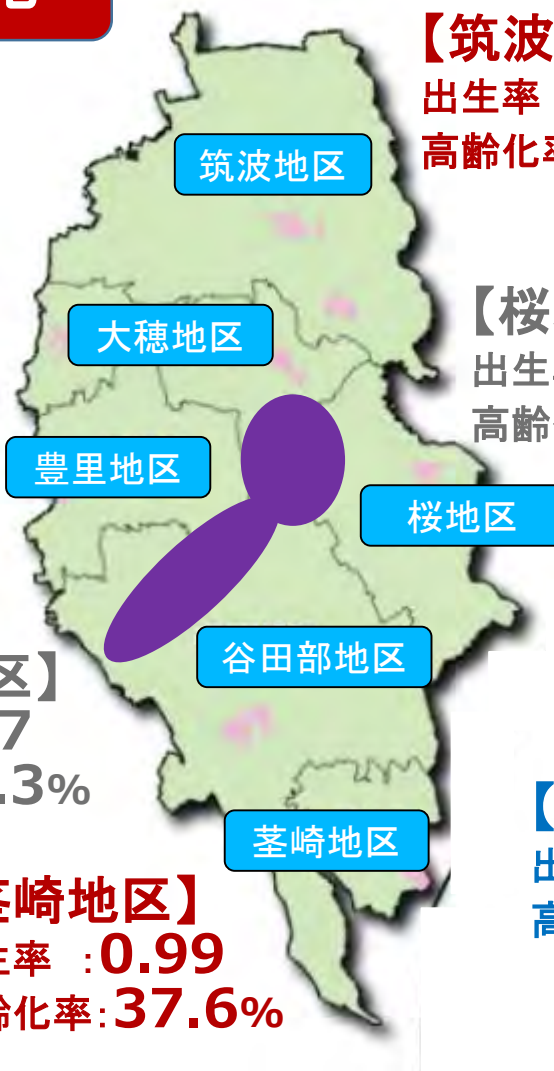
出生率 : **0.97**  
高齢化率: **34.9%**

### 【桜地区】

出生率 : **1.16**  
高齢化率: **22.2%**

### 【TX沿線地区】

出生率 : **2.27**  
高齢化率: **4.4%**



※合計特殊出生率: 2017年度の値  
高齢化率 : 2018年4月1日時点

## こどもの貧困

約1,200人

---

約20,000人

※2018年10月時点

## 中心市街地の賑わい低下

### 中心市街地から大型商業施設が撤退



本市を取り巻く課題に対応するためには、  
将来の世代のニーズを充足する能力を損なわずに、  
現世代のニーズも充足する必要がある。

・

親和性

国連の持続可能な開発目標(SDGs)が目指す  
「誰一人取り残さない社会」



2030年をターゲットに、  
SDGsによる持続可能なまちづくり



# SDGsに関するつくば市のこれまでの取組

2019.4

つくばSDGsパートナー発足

2018.6

SDGs未来都市

2018.3

つくば市政にSDGsの理念を反映する  
ための取組を求める決議(市議会)

2018.2

持続可能都市ビジョン公表

2017~

市議会議員及び職員向け勉強会開催



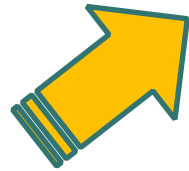
つくば市は茨城県内唯一の「SDGs未来都市」  
(全国で29自治体)※2018年6月に選定



## 《持続可能都市ビジョン》

- 1 包摂都市
- 2 人材都市
- 3 科学技術都市
- 4 共創都市

つくば市の事業  
【CIVIC事業】



Child こどもの未来

Inclusiveness 包摂的な社会

Value 価値の創造と継承

Infrastructure ユニバーサルインフラ

Circulation 循環と環境保全



つくば市総合計画



つくば市  
未来構想



地域全体  
【つくばSDGsパートナーズ事業】





➤ 2019年4月1日 「つくばこどもの青い羽根基金」創立

➤ 支援事業(予定)

つくば市こども未来プランに基づき、こども食堂や学習支援・居場所づくりを支援



こども食堂



学習支援・居場所づくり

## つくば市こども未来プラン

安心できる居場所・学習環境で、つくばの子どもを育む

平成31年(2019年)2月策定

### 居場所+学習支援

(1,219人※H30.10)

- 対象：経済的に困難を抱える子ども
- ・学習支援団体との協働(4～9年生) H29 2か所→H30 3か所→H31 拡大(12か所)
  - ・学習塾代支援(9年生)
  - ・アウトリーチ(訪問支援)の実施
  - ・スクールソーシャルワーカーの活用

### 居場所支援

- 対象：就学前児童～高校生以上
- ・子ども食堂実施団体への支援(平成30年11月から補助金開始)
  - ・つくば市に必要な居場所づくりの検討

### 学習支援

- 対象：1年生～9年生(約2万人)
- ・中学生：「地域未来塾」の開催
  - ・小学生：「放課後子供教室」での学習支援の実施
  - ・学習インフラの整備

平成31年度からの5か年プラン

### 市民参加

- 市民が参加しやすくするための支援
- ・ボランティア説明会の開催(学習支援・子ども食堂)(平成30年12月初開催)
  - ・学習支援事業者向け研修会・意見交換会

### 保護者支援

- 対象：経済的に困難を抱える保護者
- ・高等職業訓練促進給付金の活用促進(市独自給付をプラス)

### データ収集

- 支援すべき子を取り残さない
- ・データベースの構築
  - ・非認知能力等判定(自己肯定感等の調査)の実施

### 推進体制

- 施策の推進体制を構築
- ・つくば市こども未来懇話会におけるチェック
  - ・つくば市こども未来庁内連携会議の開催

### 支援の方向性

- ・持続可能な開発目標(SDGs)に沿った包摂的・包括的な支援
- ・地域、実施団体、大学、学校等との連携

### 達成目標

- 1 自己肯定感を持つ児童生徒の割合の増加
- 2 将来の夢や目標設定力を持つ児童生徒の割合の増加
- 3 家庭学習の習慣づけができていない児童生徒の割合の増加
- 4 「よくわかる」「わかる」を実感できる児童生徒の割合の増加
- 5 希望者全員の高校進学・卒業



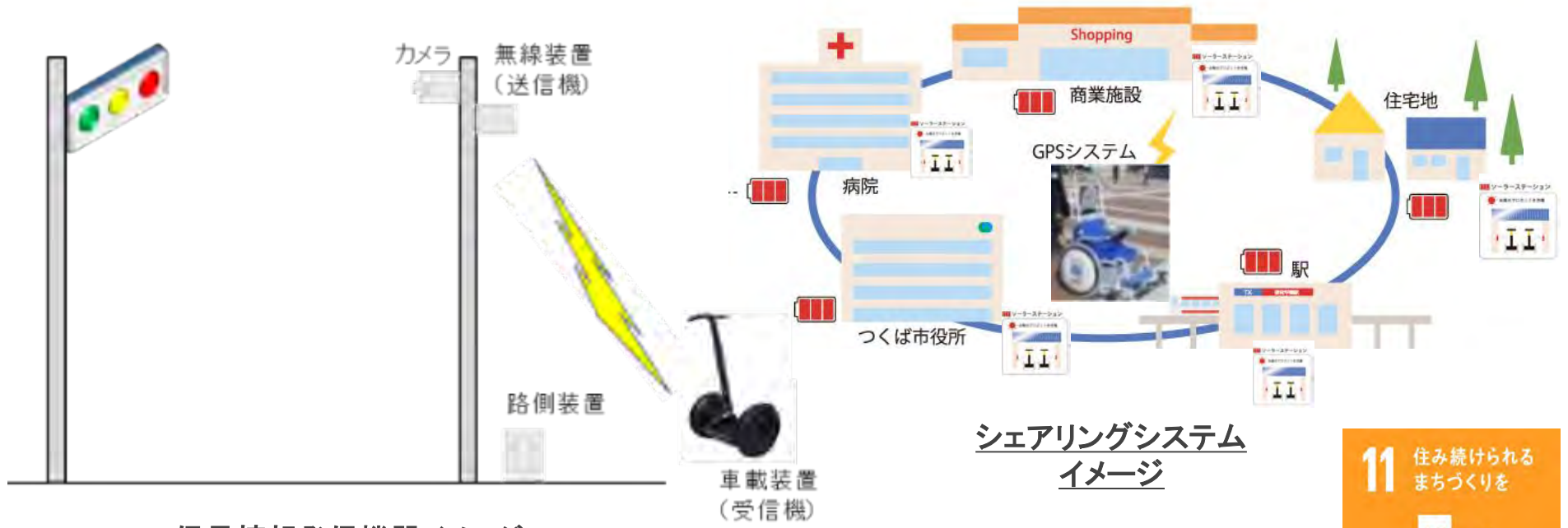
電子申請はこちらから

1 貧困をなくそう



# 自動運転移動支援ロボット(近未来技術社会実装等事業)

- 無人自動走行や端末を用いた遠隔地からの呼出しが可能。将来的には、ビッグデータ・AI分析による最適配置による自律分散型シェアリングシステムを目指す。
- 路線バスよりも便宜性が高く、タクシーよりも安価な移動手段を提供し、ファースト・ラストワンマイルを、個々人のニーズにあった移動を可能とする移動革命を実現。



信号情報発信機器イメージ

シェアリングシステム  
イメージ

11 住み続けられる  
まちづくりを

# 地産地消

- 地元農産物を提供する飲食店・メニューを認定し、地域メディアと協働しながら広報PRを行う。
- 農家・飲食店の連携基盤を作り、双方の収益性を向上
- 農産物の地域内消費(循環)により、輸送等に係る環境負荷を低減
- アンケート実施(つくば産食材使用店舗率約75%、各食材の使用率米55%、大根43%、ねぎ43%など)
- 2019年度から本格的に事業をスタート

つくば市産ヤーコン、にんじん、ぶなしめじ



つくば市民の日の給食(地産地消メニュー)

市役所で行われるプチマルシェ

12 つくる責任  
つかう責任



# つくばSDGs市民ワークショップ



## 平成30年度

第1回 9月 30名

第2回 10月 25名

第3回 11月 15名 合計 70名

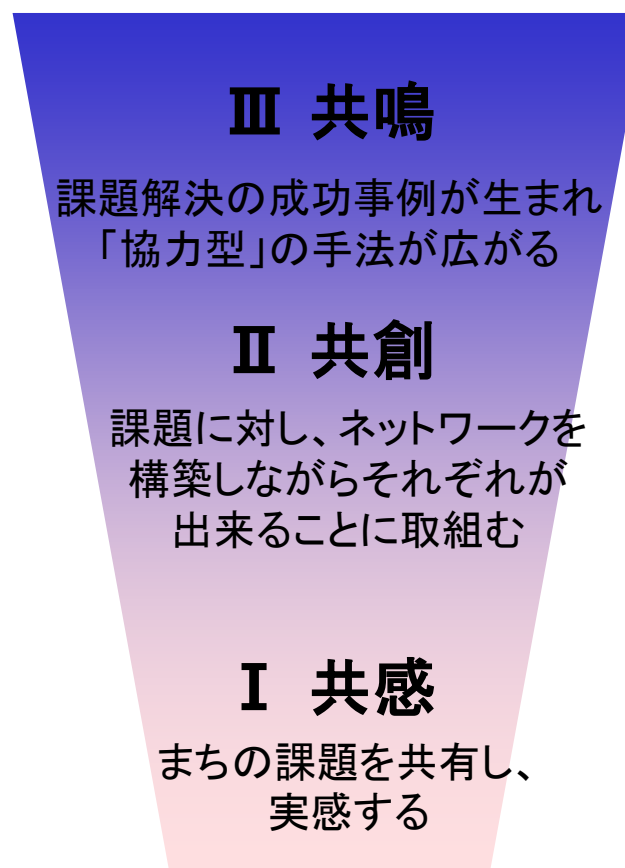
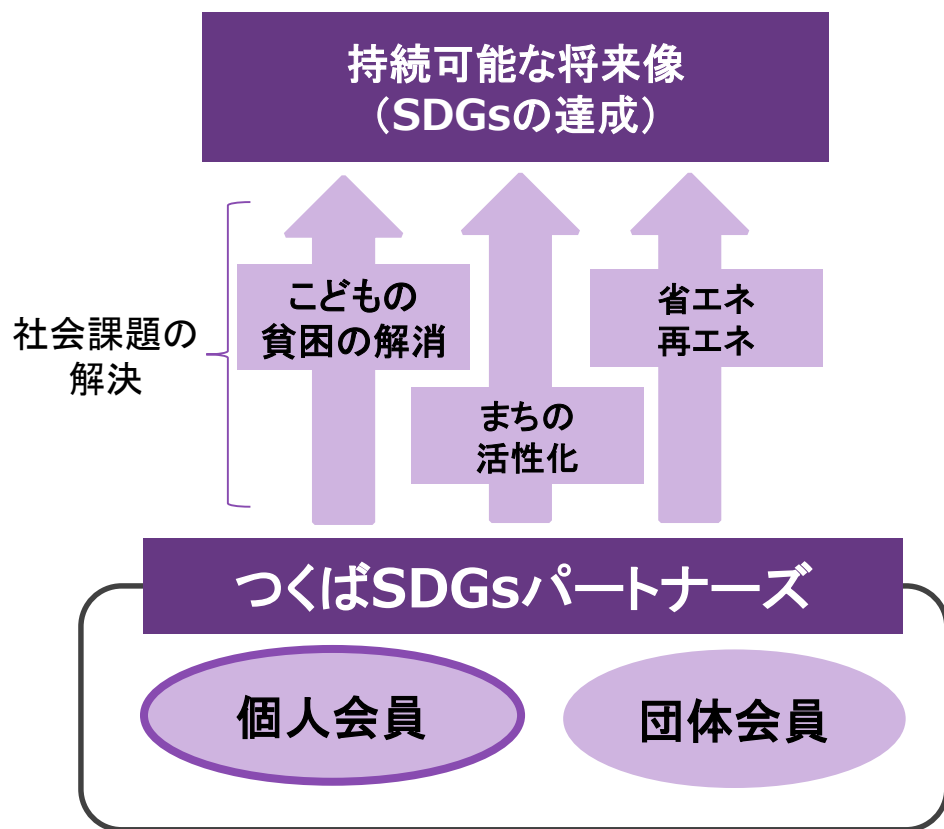
## テーマ

「SDGsと最近の気になること」

「身近なSDGsのために私のできること」

## つくばSDGsパートナーズの概要

- 2019年4月から開始。SDGsに関する取組を行う(関心のある)市内の企業・研究機関・市民団体・区会・個人など幅広いメンバーが集まり、ネットワークを広げる
- 地域の課題を皆で解決し、住み続けられるまちを作る
- SDGsに取り組むための第一歩を踏み出すきっかけをつくる(きっかけを得る)





## 【第一回講座】

講師：筑波大学 生命環境系 辻村真貴教授

### SDGsと地球規模課題

～水を中心としたガバナンスのあり方～

- ・水の履歴書を作る ・水循環と物質循環
- ・河川から地下水への水供給
- ・持続可能な水の保全と利用（地下水位の測定、湧水の清掃活動等）
- ・人間が1日どのくらい水を消費しているかを認識する

## 【第三回講座】

講師：筑波大学 人文社会系 五十嵐泰正准教授

福島の海のいま～試験操業から資源管理型漁業へ～

- ・急速に低減している海鮮物の汚染
- ・福島の海は、震災後豊かになっている
- ・持続可能で「安定して稼げる」漁業への転換時期
- ・漁獲に関する国際認証、国内認証の更なる認知度向上が重要

6 安全な水とトイレ  
を世界中に



14 海の豊かさを  
守ろう



## 〈基本理念〉 つながりを力に、未来をつくる

➤ 顔と顔が見える

➤ 挑戦を応援する

➤ 未来をつくる

- 若手を中心としたつくば市未来構想策定職員ワーキングチームで構想
- 既存の計画にはない、バックキャスト型の計画





- 様々なコミュニティによる支え合いの中で、充実した医療や介護、必要な目配りや支援などの頼れる福祉が地域に行き届いています。
- 子どもたちは、自分の好きなことを見つけ、得意で特異なことを伸ばしながら、未来を切り拓いていく力を育んでいます。
- 生活インフラの維持・更新等の社会課題解決や、誰もが簡単かつ自由に移動できるモビリティ等の新しい社会システムの導入など、科学技術で街全体が進化しながら誰もが豊かな生活を送っています。
- 市民一人ひとりが地球や環境に優しい選択を大切にし、自分ができる身近なことから取り組むとともに、地域で最適な生産や消費、再資源化、再利用等を進めることで、「ごみ」という言葉がなくなっています。
- 市民一人ひとりが自分の街への愛着や誇りを持ち、社会・経済・環境の関係性を考えながら意見を交わし、自ら行動することで、市民が中心となったまちづくりが進んでいます。
- 2048年に人口約29万人を目指します。

名峰筑波山をはじめとする恵み豊かな自然、最先端の科学技術、世界に開かれた多様性などのつくばの資産は、過去からの先人たちの努力により守られ、創られてきました。現在を生きる我々は、敬意と感謝をもって、この資産を未来の世代に継承し発展させていくことが求められます。そして我々は、地域や地球社会が直面する少子高齢化、貧困と格差、気候変動などの課題も克服していく必要があります。

これらは、我々と未来の世代そして世界に共通する使命であり、この使命を果たすために、以下の通り「持続可能都市」を目指していきます。

(引用元: 持続可能都市ヴィジョン 前文)